

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25年 3月 31日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21300243

研究課題名（和文）

超高齢化地域におけるセイフティ・ヘルスプロモーションによるヘルスケアタウンの創生

研究課題名（英文） Creation of “Health Care Town” by means of safety promotion and health promotion in a super-aging area of a metropolis

研究代表者

桂 敏樹（KATSURA TOSHIKI）

京都大学・医学（系）研究科（研究院）・教授

研究者番号：00194796

研究成果の概要（和文）：

プロジェクト目的：大都市中心部の独居や夫婦のみの高齢者世帯が多い地域においてサクセスフルエイジングを実現するために健康な街（ヘルスケアタウン）づくりを進めるプロジェクトを展開している。

プロジェクトの対象集団：京都市内で最も高齢化率が高く（31.7%）、独居及び夫婦のみの高齢者世帯が最も多い東山区の栗田学区をフィールドとした。プロジェクトの対象は同地域に居住する子供から高齢者までの全ての住民である。特に、独居または夫婦のみの高齢者世帯と子供を育てる母親に焦点を当てたプロジェクトとした。

プロジェクトの活動と考察：2007年に古川町商店街の空き店舗に設置したすこやかサロンが本プロジェクトの起源である。ここでの我々の活動は、健康教育、健康相談、ヘルスケア、身体運動、出前健康講座、世代間交流、社会的交流、社会的安全、環境美化を含む。本プロジェクトは、子供から高齢者までの健康増進活動、疾病予防、安全・安心促進を総合的に組織化することで、研究期間中にこのプロジェクトを推進した。その結果、ソーシャルキャピタルの協働を強化すること、多機関多職種と住民の社会的ネットワークの構築を促進すること、予防活動を通じて小地域において健康で安全安心な街づくり“ヘルスケアタウン”のシステムを構築し、それを継続的に育成強化することが実現しつつある。

研究成果の概要（英文）：

Project objects : In an area with the highest rate of the elderly independently living alone or only married couple in a metropolis, we are trying to create a healthy town, Health Care Town, with all residents living in safety and security for the purpose of achieving the goal of successful aging in a community.

Target groups : Study field was Awata elementary school district near Furukawa-cho shopping street in Higashiyama-ku, where is an area having both the highest rate of the elderly living alone or only married couple and the highest rate (31.7%) of the elderly aged 65 years or over in Kyoto City. Subjects of this project are all residents from children to the elderly living in Awata, mainly the elderly living alone or only married couple, and children and their mothers.

Activities and discussion : Origin of this project is “Sukoyaka (being healthy and sound) Salon” set up in a vacant store in Furukawa-cho shopping street in 2007. Salon is open on every Saturday and our activities undertaken there consist of health education, health consultation, health care, physical exercises, delivery of health education by public health nurses, intergenerational exchange and social exchange among residents, social security, and environmental beatification.

This project aims to strengthen cooperation among social capitals, to promote social networking between residents and experts in multiple agencies, and to develop local systems of “Health Care Town” through preventive activities, which are totally organized three activities of health promotion, disease prevention and safety promotion for all

residents from children to the elderly.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,800,000	2,040,000	8,840,000
2010年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2011年度	1,800,000	300,000	2,100,000
2012年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
総計	12,100,000	3,390,000	15,490,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康スポーツ科学・応用健康科学

キーワード：超高齢化地域・ヘルスプロモーション・セーフティプロモーション・ヘルスケアタウンの創生

1. 研究開始当初の背景

我々はこれまで科研費等の助成を受けた研究において、(1)循環器疾患予防・高血圧管理等による要介護リスクの軽減、(2)社会的交流の推進と健康相談・健康教育の充実による閉じこもりと介護予防の強化、(3)生活環境の安全管理から高齢者の転倒・外傷予防や安全安心な街づくりを、それぞれ独自に進めてきた。近年これらの予防活動は単独で行うよりも小地域で包括的・予防的な街づくりの構築が効果的であると考える。とりわけ、生活習慣病予防と介護予防の両者をサクセスフルエイジングに結び付けた予防的健康支援システムを如何に構築するかが問われている。特定高齢者施策は特定高齢者の把握が困難であることから、いまだ効果的な対策になっていないため実効のある包括的な予防的健康支援システムの構築が必要である。

本研究の学術的背景について、まず健康で安全安心な街づくりの歴史的な背景について触れたい。1989年にWHO,CSP協働センターが誰でもが安全に安心して生活できる街づくりに取り組むコミュニティを『セイフコミュニティ』とした。その実現に向けた取り組みがセイフティプロモーションであるが、これまで関心は低かった(Welander G 2004 他)。近年老人保健では介護予防に重点が置かれるなか、一方で転倒等の事故等への関心が高まり地域社会や日常生活における安全性向上の取り組みが注目されている(反町吉秀他 2005)。保健や福祉施策において介護予防対策の強化、保健福祉の連携強化、住民の主体的な参画、安全性の向上等が強く求められる。しかしこれまでの国内外の研究は特定の対象や項目について個別に行われ、現場レベルのものが多く政策の視点から包括的体系的な研究はほとんどない(Cho J P et

al 2002 他)。またコストをかけずに地域の実情に合った柔軟な取り組みを行いながら科学的にその効果を確認できる方法の開発も必要である(白石陽子 2007)。我々はヘルスプロモーションとセーフティプロモーションに関して具体的な研究成果と実践的な取り組みのノウハウを蓄積している。今回はこれまでの研究の成果を踏まえ両者を包括的に統合したセイフティ・ヘルスプロモーションに基づくヘルスケアタウン創生する実践的な取り組みを推進したい。

超高齢化社会では住み慣れた小地域において生活できるヘルスプロモーションとセーフティプロモーションによる予防活動が必要である。本研究の成果は、(1)取り組みモデルの汎用性、(2)コミュニティの抱える課題に応じたオーダーメイドのプログラムの作成、(3)必ずしも多額の費用が必要ないこと、(4)プログラムの効果的な企画・運用と結果評価・改善の仕組みの構築が可能である。

2. 研究の目的

本研究の目的は超高齢化地域におけるセイフティ・ヘルスプロモーションによるヘルスケアタウンの創生を目的としてサクセスフルエイジングを目指した予防的地域健康支援システムの構築とそれに基づく安全安心な街づくりを推進することである。(1)健康に資する環境づくり；安全安心に外出できる生活環境の探索と阻害要因の改善。(2)健康増進・疾病予防；社会的交流、閉じこもり・転倒・介護予防を目指したライフスタイルの推進。(3)健康管理・疾病管理；家庭内血圧管理と体重管理による生活習慣病(脳卒中等)予防の強化。

3. 研究の方法

(1)安全安心な街づくり部門では、高齢者を対象にアイマールロードを装着し移動を行いながら注視点等の画像分析を行い、段差等躓き転倒危険箇所の視認率、視線移動軌跡、視線移動速度、視線移動範囲等注視点分析を行い、居住する生活環境における高齢者の危険箇所認知の特徴を明らかにする。

(2)健康増進・予防活動部門では、既に設置した『すこやかサロン』を基盤に研究を行う。在宅高齢者を対象に、自治会、婦人会、地域包括支援センター等の協力を得て調査（配布留め置きまたは聞き取り調査法）を行い、外出頻度、生活機能チェックリスト（厚生労働省版）、主観的健康感、主観的幸福感、ライフスタイル、社会的交流、血圧測定・体重測定実施状況、血圧計・体重計所持状況、サロン利用状況等を調査する。

(3)健康管理・疾病管理部門では、在住高齢者を対象に出前健康講座等を行い、家庭での血圧・体重測定の方法（血圧；起床時と就寝前及びDipperとNon-dipperの確認、降圧剤内服、体重；起床時等）と必要性を周知し、健康手帳（血圧・体重グラフ記録、その他特記事項）を配布する。健康講座参加者および(2)の訪問調査によって既に血圧・体重の測定・記録（いずれか一方の含む）をしている者、測定しているが記録していない者、測定していない者を特定し、測定していない者や記録していない者を対象に測定・記録するライフスタイルの定着化を推進する。

4. 研究成果

以下の研究成果が得られた。

(1)居住環境における躓きや転倒の危険個所の視認を高齢者と若年者等を比較すると、高齢者は小さな段差や死角になり易い個所を視認せず見落とす傾向が示唆され、高齢者向けに転倒や躓きを未然に防ぐ環境の整備が安全安心に必要である。

(2)在宅高齢者の生活実態や生活行動は、先行研究と同様の傾向があるが、サロン利用者では在宅における日常の血圧管理等が良く出来る傾向が見られた。

(3)血圧を測定していない者をサロン活用に繋げると血圧測定、体重測定を定着化できる可能性が示唆されたが、更にサロン利用者を開拓して、地域住民の血圧管理等の健康管理をサロン活用と連動して強化する手段の検討は十分とは言えない。

しかしながら、現在都市部の中心に位置する超高齢化した小地域において、住民の参画による多機関多職種連携を基盤とした健康づくりと地域力をアップする新しい取り組みを推進しているところであり、その発展はソーシャルキャピタルを醸成し、ヘルスケアタウンの創生に繋がると考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①桂 敏樹、星野明子、臼井香苗、志澤美保、村上佳栄子、藤本萌美、細川陸也、三宅 慧、西澤美香、“ヘルスケアタウン”プロジェクトの戦略と活動ーヘルスプロモーションとセイフティプロモーションによる健康で安全安心な街づくりー、健康科学、査読有、8巻、2013、39-41

②Akiko Hoshino, Kanae Usui, Toshiki Katsura, The Development of a Town of Safety, Security and Health Project in an Area with a Very High Population Aging Rate –The Activities of a Community Salon on a Shopping Street and Their Assessment–,JRM 6, 査読有, 2011、61-70

③Toshiki Katsura, Norio Miura, Akiko Hoshino, Kanae Usui, Yasuro Takahashi, Seiichi Hisamoto, Visual Recognition of the Elderly Concerning Risks of Falling or Stumbling indoors in the Home - Comparison of Visual Attention Points Among Elderly, Middle Aged and Young Individuals -,JRM 6, 査読有, 2011,71-80,

④星野明子、桂 敏樹、臼井香苗、超高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成ー京都市古川町商店街に展開する「すこやかサロン」ー、保健師ジャーナル、査読無、66巻、2010、124-129

⑤星野明子、桂 敏樹、臼井香苗、『すこやかサロン』で街づくり、健康づくりー超高齢化地域におけるソーシャルキャピタルの醸成、保健師ジャーナル、査読無、66巻、2010、83-85、

〔学会発表〕（計9件）

① Akiko Hoshino, Experience of Participating in Elderly Support Activities in Urban Areas of Kyoto, PACIFIC INSTITUTE OF NURSING, 2013年3月22日, Honolulu Hawaii USA

②Toshiki Katsura, Strategy to Create New Social Capitals in Health Care Town Project in the Super-aging Area of a Metropolis, Kyoto, Japan, PACIFIC INSTITUTE OF NURSING, 2013年3月22日, Honolulu Hawaii USA

③星野明子、超高齢化地域におけるセイフティ・ヘルスプロモーションによるヘルスケアタウンの創生（第2報）ープロジェクトの評価ー、第60回日本農村医学会、2011年11月2日、岐阜

④桂 敏樹、超高齢化地域におけるセイフティ・ヘルスプロモーションによるヘルスケアタウンの創生（第1報）ープロジェクトの概

要一、第 60 回日本農村医学会、2011 年 11 月 2 日、岐阜

⑤桂 敏樹、居住環境における転倒躓き危険個所の視認－高齢者と中年者、若年者の比較－、第 70 回日本公衆衛生学会、2011 年 10 月 20 日、秋田

⑥Akiko Hoshino, Creation of Health Care Town through health promotion and safety promotion in the super-aging area of a metropolis (2) – project and assessment –, International Conferences in Community Health Nursing Research Biennial Symposium 2011, Edmonton, Alberta, 2011, 5,4, Canada,

⑦Toshiki Katsura, Creation of Health Care Town through health promotion and safety promotion in the super-aging area of a metropolis (1) – “Health Care Town In Kyoto” Project – International Conferences in Community Health Nursing Research Biennial Symposium 2011, Edmonton, Alberta, 2011, 5,4, Canada

⑧Toshiki Katsura, “Health Care Town in Kyoto” Project aiming at successful aging of residents in the super-aging area of a metropolis, Pacific Nursing Institute of Research Conference 2011, 2011, 3, 31, Honolulu America

⑨Akiko Hoshino, The development of health in an area with a very high population aging rate in Kyoto – The activities of a community salon in a shopping street and their assessment –, PIN (Pacific Nursing Institute of Research Conference 2010) ,2010, 3, 10, Honolulu America

[図書] (計 1 件)

① 桂 敏樹 (監修 北徹)、西村書店、健康長寿学大辞典、2012、825

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桂 敏樹 (KATSURA TOSHIKI)

京都大学・医学 (系) 研究科 (研究院) ・教授

研究者番号 : 00194796

(2) 研究分担者

星野 明子 (HOSHINO AKIKO)

京都府立医科大学・医学部・教授

研究者番号 : 70282209

春木 香苗 (臼井 香苗) (HARUKI KANAE)

京都府立医科大学・医学部・講師

研究者番号 : 50432315

奥津 文子 (OKUTSU AYAKO)

滋賀県立大学・人間看護学部・教授

研究者番号 : 10314270

(3) 連携研究者
なし ()

研究者番号 :